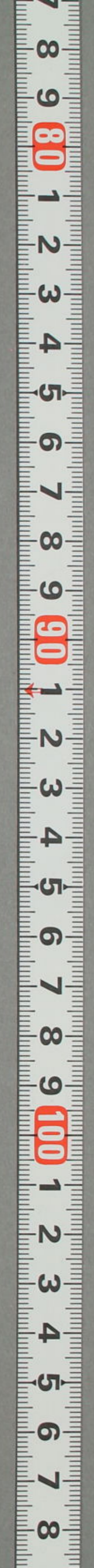




秘傳騎射書

ケ 5
521
5止





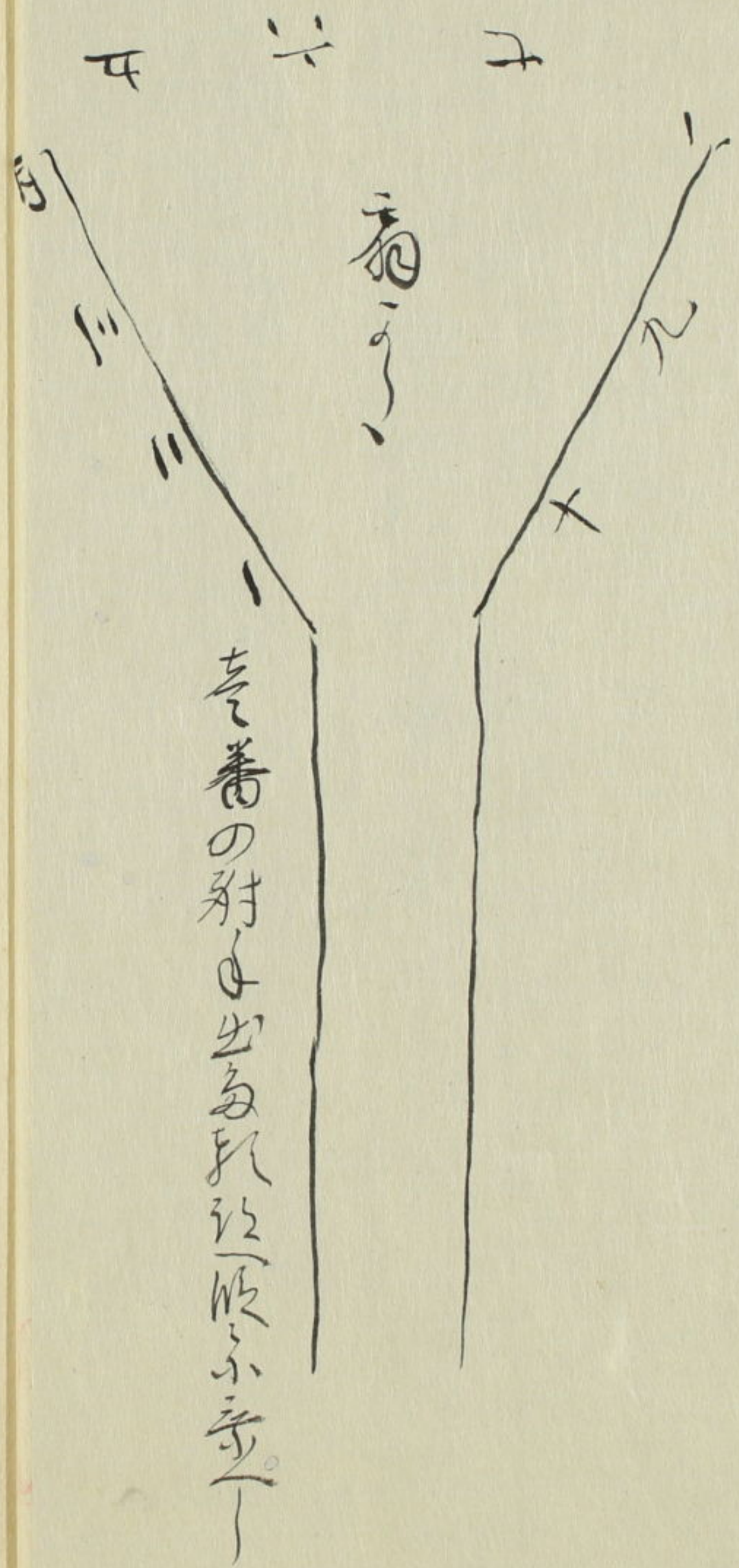
騎射日用之書





一 装束ハ才一 小袖才二 尤多才三 弓小才四 才四 具才五
乃 騰才六 矢才七 才八 鞭才九 竹筵才十
弓と持打出る 但足袋ハ 餅のさし 足袋なり
一 装才終て 馬建 処ハ 引とさし 弓此持や 矢摺藤
のえつれとさし 馬ハ 小鞭のハ 柄と逆亦持行 騰
乃 衣筒白毛の処と弓 鞭持多れ 脛つす 妙弦と下 衣
し 弓 菅地より 六寸 明つ持を 矢一本ハ 弓小持 添
たり 又行 騰乃 袴斗の時ハ 弓ハ 馬ハ とも 元
をえり 帯きし 小巻を 付て あり あり

一 銘く馬よりの揃て一番の射より順く馬場未
 より馬場中へ系渡りてさく馬場中へ行扇形馬
 の尻を向て屯すべし一団のまじり



一 射馬の下系能く秘人おろふ事一追りけ系ハ悪
 く、免角馬の氣たゞはや下よりさくべし
 一 騎射する時鞍具足の損矢も念入盛り別て力草
 腰帯も細四方も等氣をひき合べし
 一 行騰をゆみく矢をも挟むを蠶目と免のむ
 すむとともきてた草れ緒すしそよと蠶目と
 免の紐とて緒す
 一 馬の鬃ハ野り中へ巻髪友の馬を射も装束の宗
 也いぬれともく揃りすよ立ゆなり

一 騎射の肘用えす巻ぶふえ糸針糸着付櫛え結
池札本扇なり

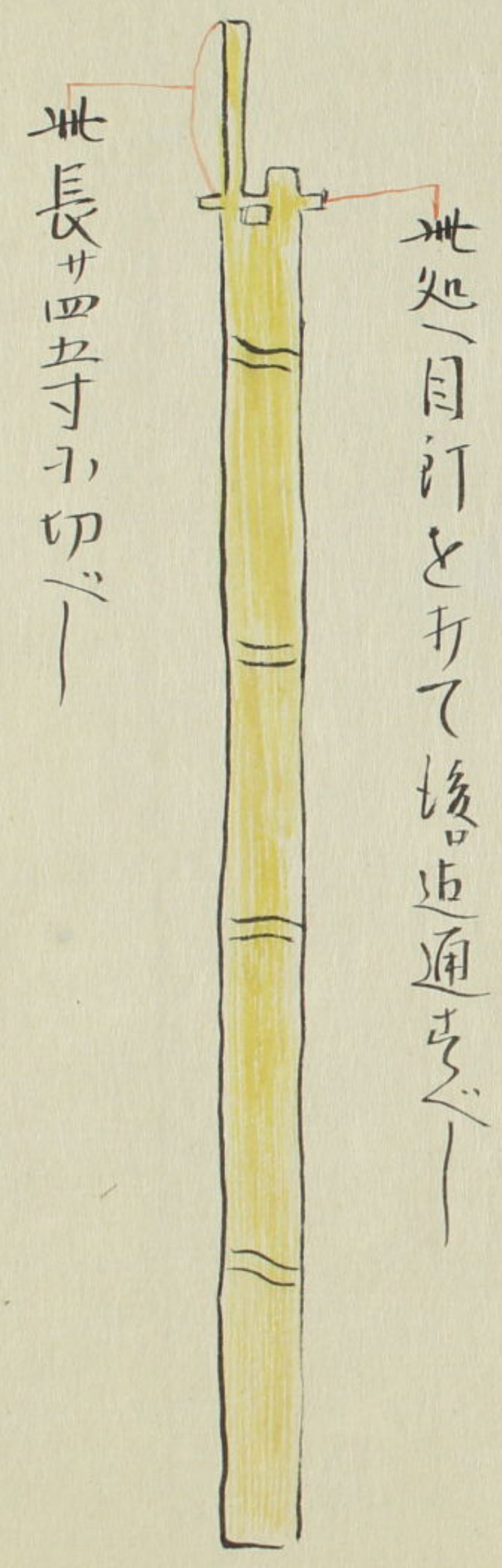
一 馬の尻りひつかり又腹帯北志ぬりるたらハ
胸りひい志のとすべー但布腹帯先ハ

一 馬小打糸ハ前志ふなりとも射て肩口とと
ろくー同なり時ハ素引ユクもは

一 騎射の前小素駒二三履人追べー足鞆の根子
長短と心見づきた免なり

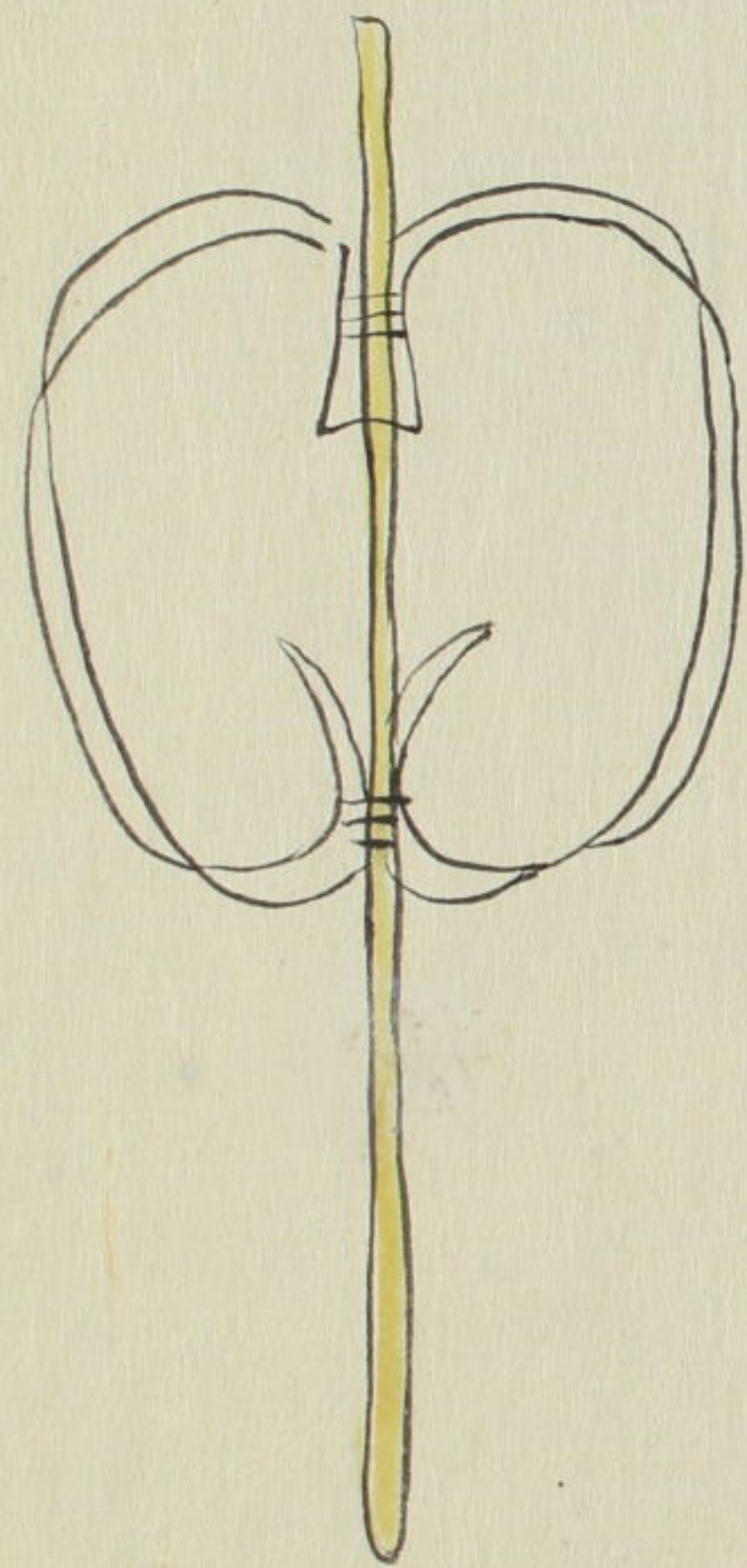
一 挾物の串ハ竹本儀なり切口貳寸の竹長サ
四尺

二三寸不どふ切て挟き己図のやくきめて
右長サの外七入一尺なり

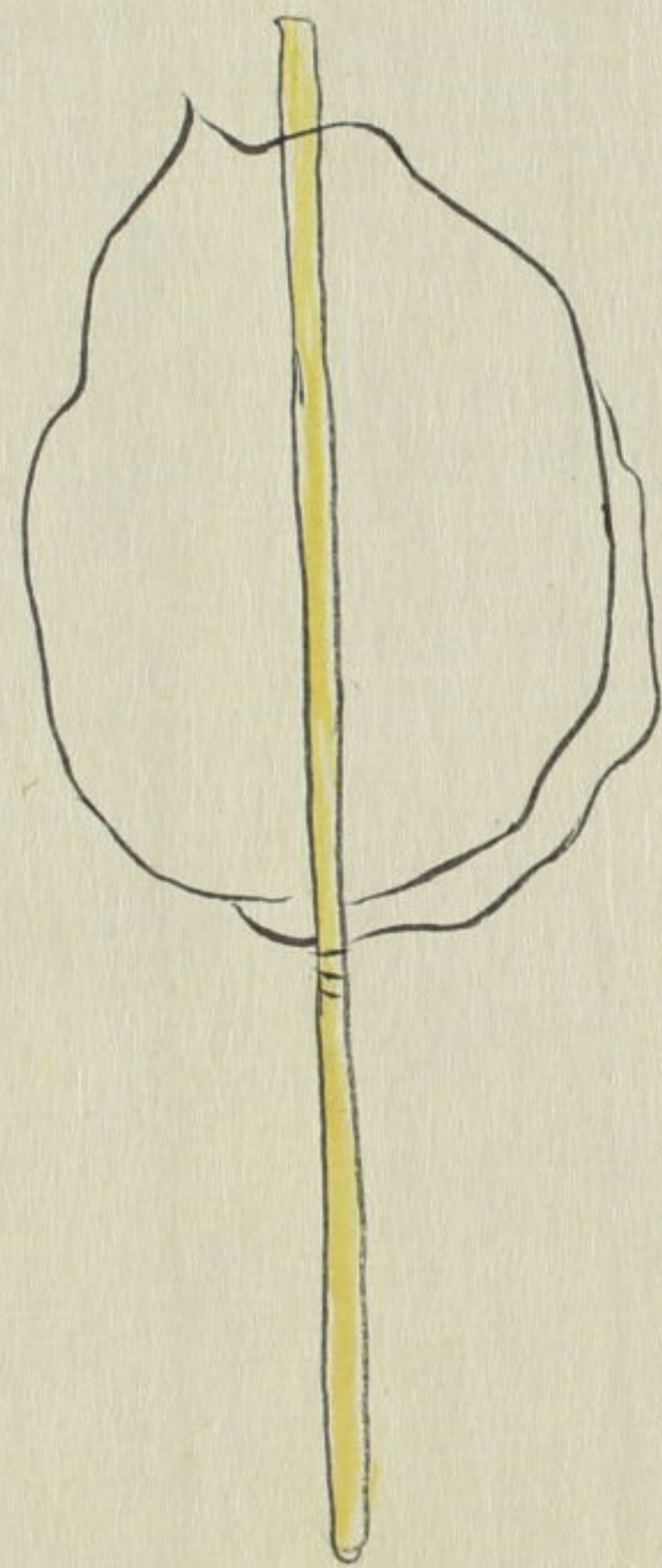


的の外作物の串ハつんどきりなり

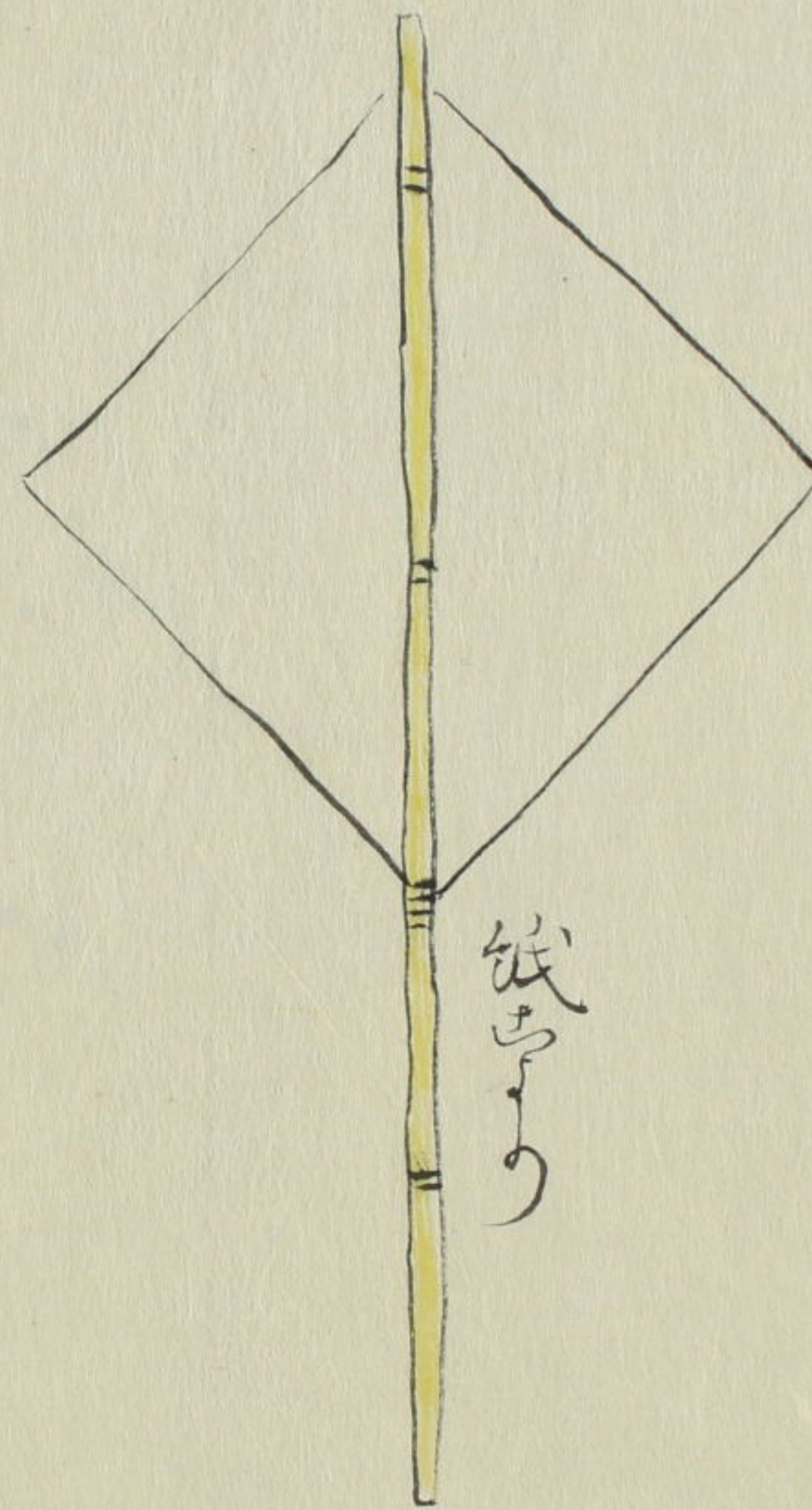
草



貝



五紙



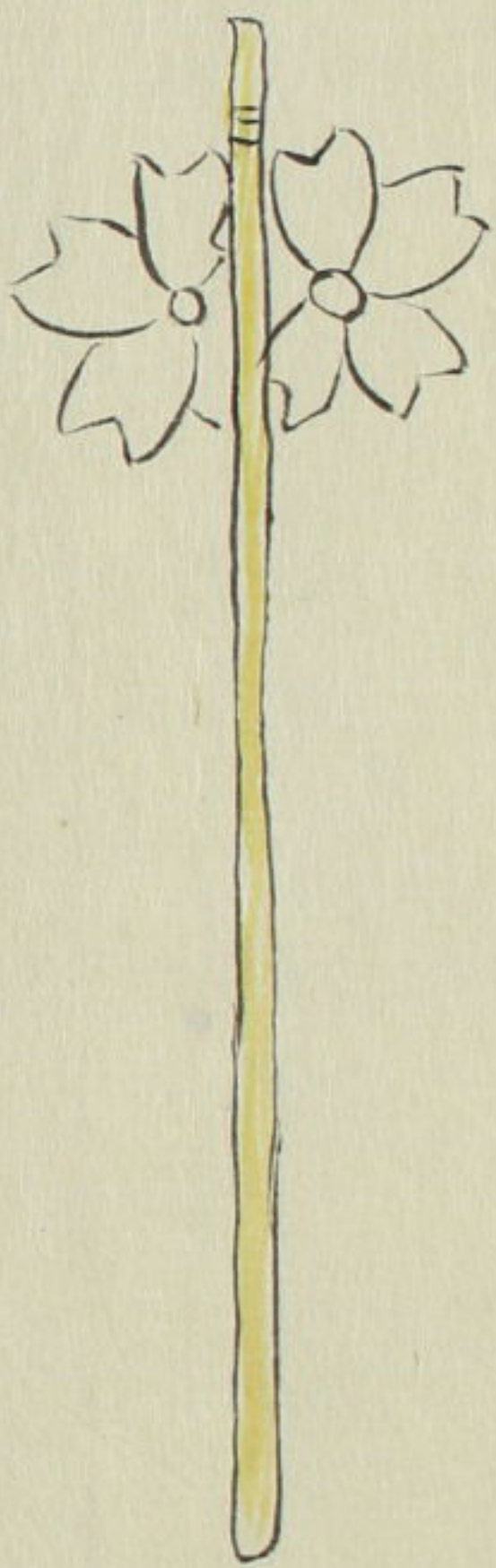
紙の

一的の外と云ハ草の葉花貝五紙木の葉の類なり挟むる図の如し

挟竹と世所々々



花



葉



作物ハ世類ナレトモモテ席フツクナリ一々ノ
 紋等其合ハ所一ハハを急スベ一
 一矢留或ハ矢先ハ虫紋ノ幕帯等ノ川魚ノ人ノ
 一和川てもん坊一若之撥時ハ断と一て射一
 一中リ附ハ團の如くまゝ一

○ ○ ○
 〇 〇 〇
 ⊕ ⊕ ⊕
 アタリ
 ハツレ
 イツ

射ガも極くあは矢アハ同ホ合ズ又ハ若ク不れ等

別冊のものぞえり依しをぐれ定識いふ所と
云六弦きれの類なり

一有徳大君小笠原石見とと小笠原平忠清と
作書日記と書の本

騎射挾物射

一右より日記及び三人執筆ハ別人なり又日記の紙ハ
枚束の紙ありを檀紙なり大鏡の付ハ紙と併て
用也併て時ハ奉書とも和紙也

但日記ハ二的三的ノ間テ的ノ方有て建るなり

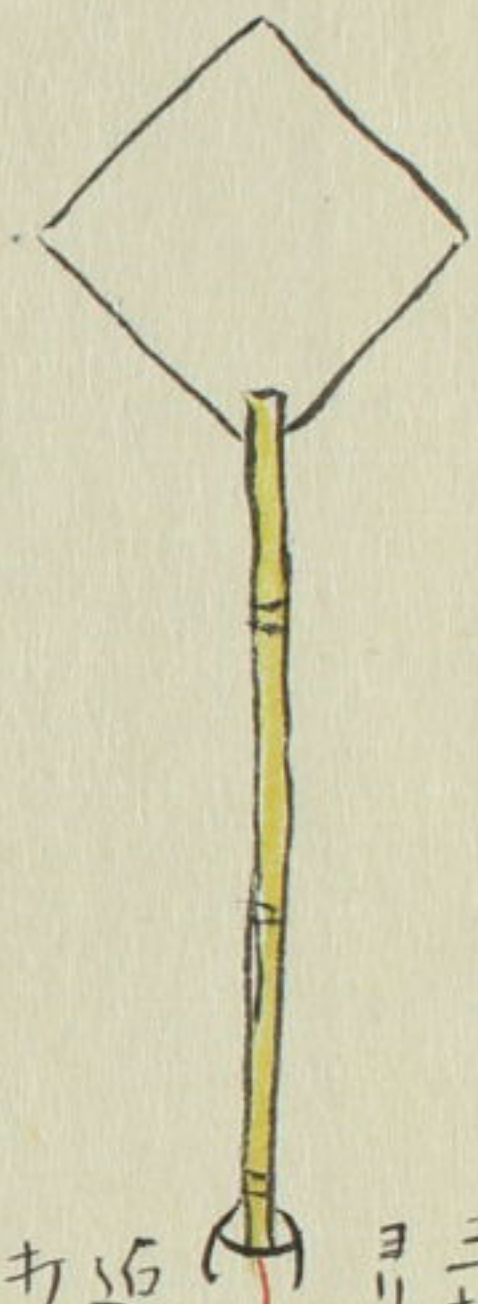
一的ノ中リたふ時の録ハ本式本録より二本口本
録ニみ本六本録ニツなり

一法きれ馬きれ鹿馬弓落一其外ハ公場の書不
記也爰不畧す

一三枚み杖とも疏の中より串的串建きり近えり
弓もてうつなり

三枚み杖とも因の

○化子物名目の事



三杖五杖共疏真串
ヨリ串ノ請筒キハ
近ヲハツシヨリ
カナリ

疏ノ幅ハ尺餘ナリ

一四六之の挟と云ハ一尺の的なり四寸ハ六寸ヲ合して尺
なり是と云ッ建て返射れハ四六之の挟也

一之九の挟の一尺の的と云ハ建て返射れを矢
数九本なり依し之九の挟也

一三尺の挟とハ一尺五寸の的と云ッ建て返射レ
豈を尺五寸横を尺五寸合せて三尺なり依し三尺
の挟也

一馬上云ッ相と云ハ流瀉馬並懸犬追物なり又お物と
云流瀉馬並懸犬追物ナリ行走弓の事なり

是ハ笠原持長傳の書ハ書き世人ナリ

一 小袖の行セグキ又小袴馬宗袴のチウ並ハあはれ
キの儀ハあはれ

一 弓ハ常々射込ムれと申一トウを弦絶ズハあはれ

一 弓弦の苦留メその時の矢を引ハ合せん人並一トウ

一 笠當てもれハあはれ

一 一具の射ハ懸一トウ射ハ一トウ懸意申也一トウ

一 晴の時あはれ懸一トウ暮夜射ハ一トウ不と申一トウ

一 刀ハ一トウと申也一トウ



一 騎射ハあつぎハ懸一トウ候付ハ一トウ懸一トウ祝合也一トウ

一 返射て二返目射ると云々矢苦と改一トウ古の入て也

一 事ハも何リ二返目矢つひの時損ナリ人得一トウ

一 一具の由を草のひたらハ懸一トウ矢づハ一トウ損あり

一 懸一トウ装束終てあはれあはれ自由申一トウ一トウ

一 一トウ一トウ振ハ一トウ

一 刻行騰ハ畧儀ナレも押て用也れ時ハ何

一 草ハても一トウの夏毛と云ハ一トウ夏毛一トウ

一 一トウハ大略儀ハ一トウ一トウ一トウ

図の如し

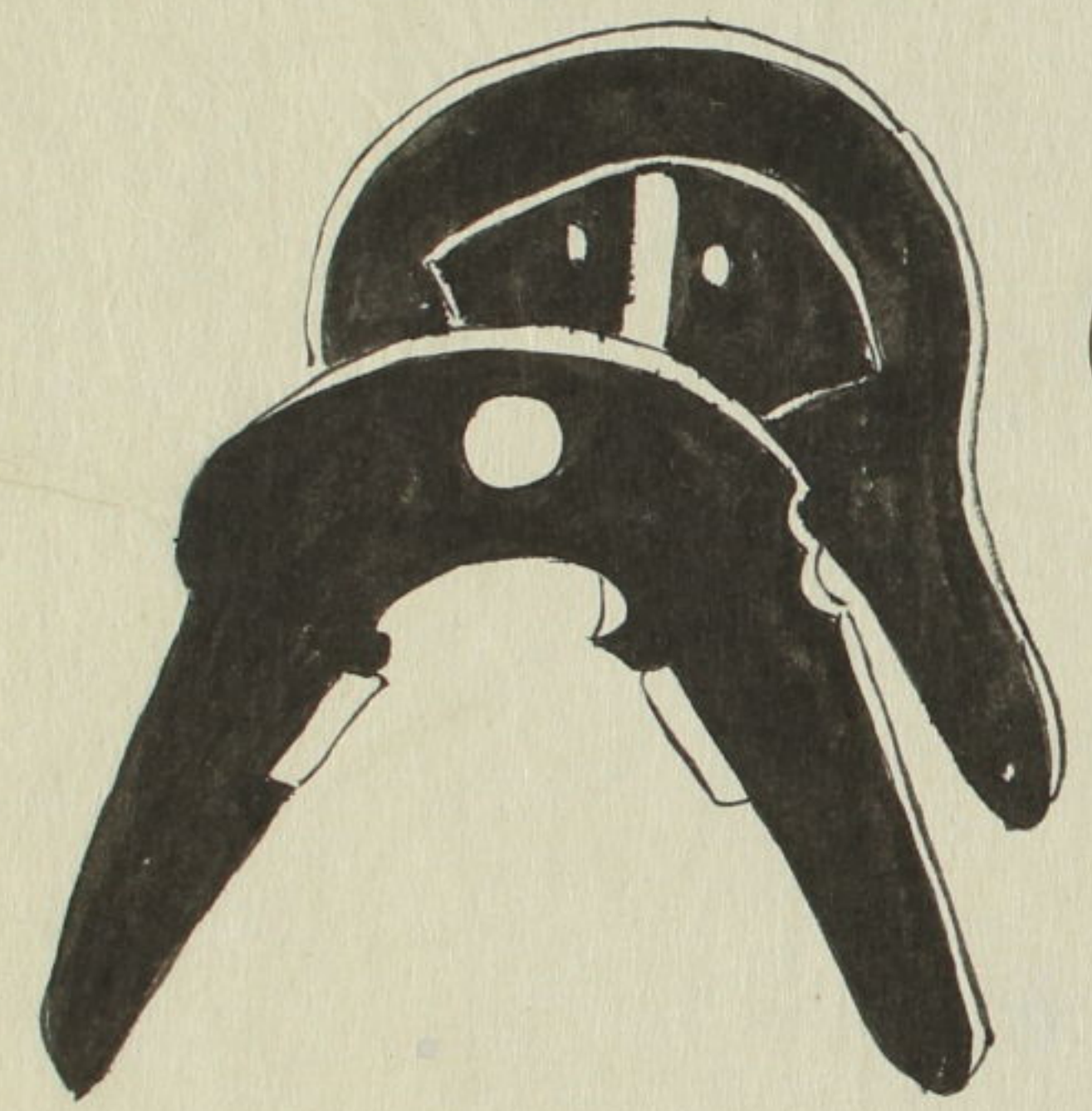


秋毛
冬毛
白麻
然の類

夏毛

馬具是の事

一鞍ハ悪の花わり乱紋ぬく人も亦どこふて
事古實之をなから尚時ハ金銀少て紋ぬく
人もすらす若のび



一 鍔

一 鋼の長さ八尺押懸と同し後深きすべし

一切身ハ唐寧す川を禁ぶし草薙切身墓肌

切身きりて

但かむしるハ志也ろあて作草薙ハ細代も作墓

ちぶハ草と悪うろしあてぬき

一 板馬槽刀草とも晴の付ハ貫にぬき

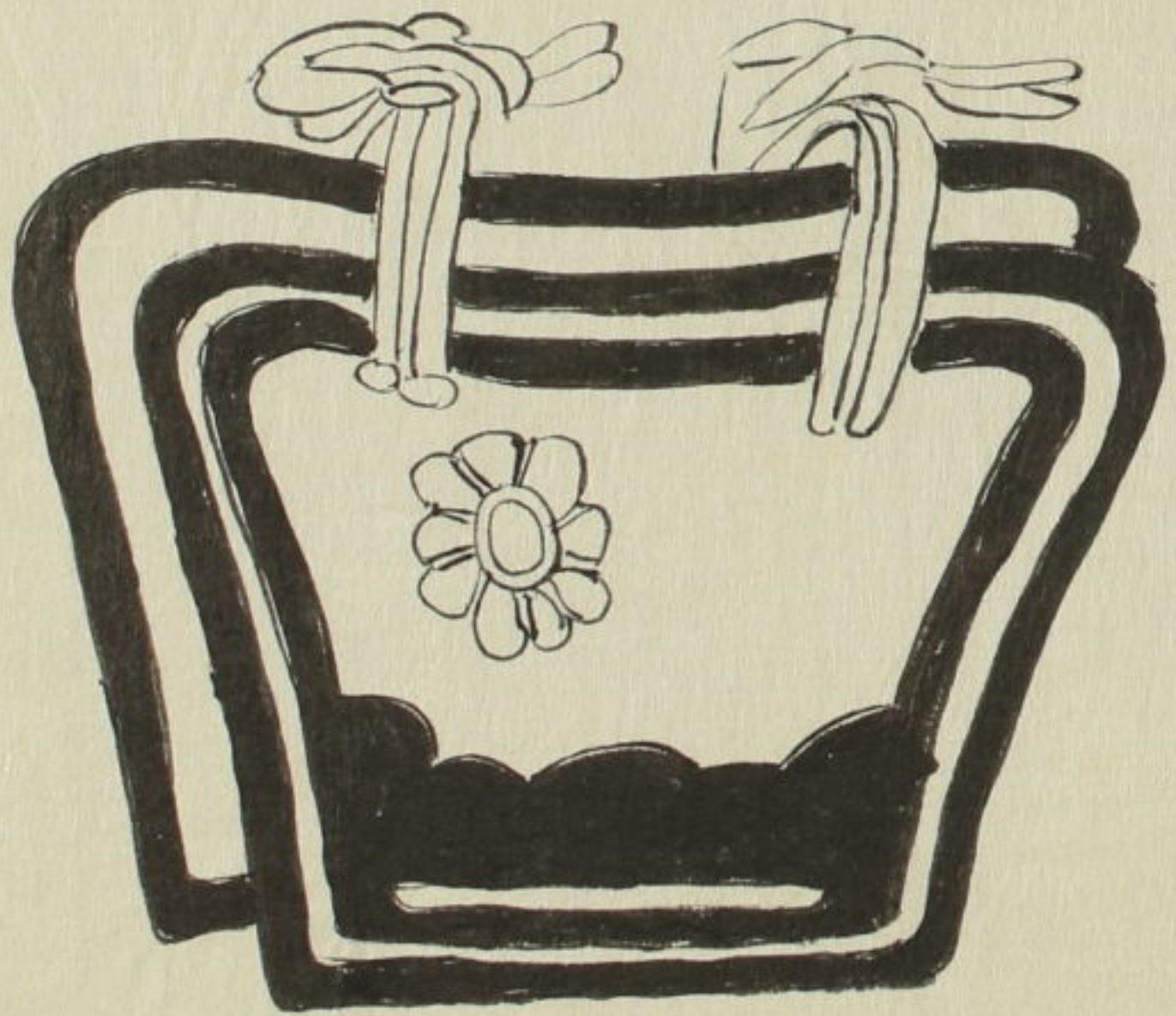
但にちるし
深きり

図の如し

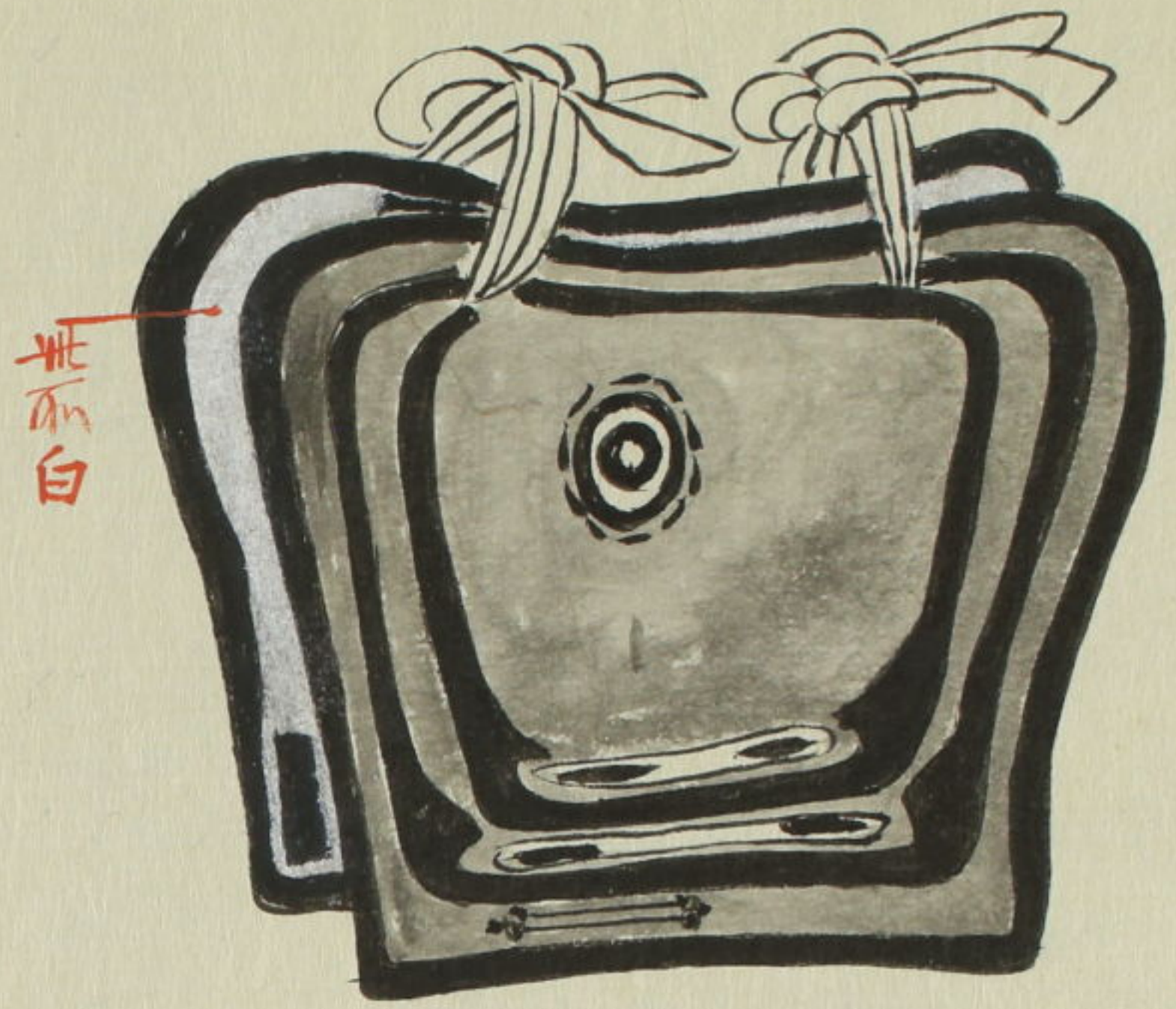
一 唐寧切身 志也ろあて作



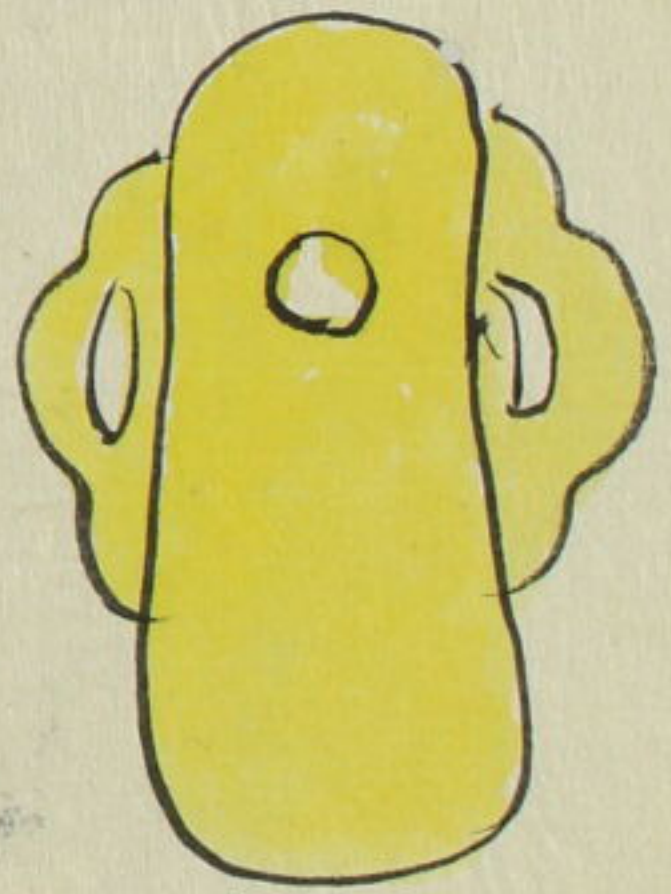
草薙切身 細代も作



一 引肌切付草包

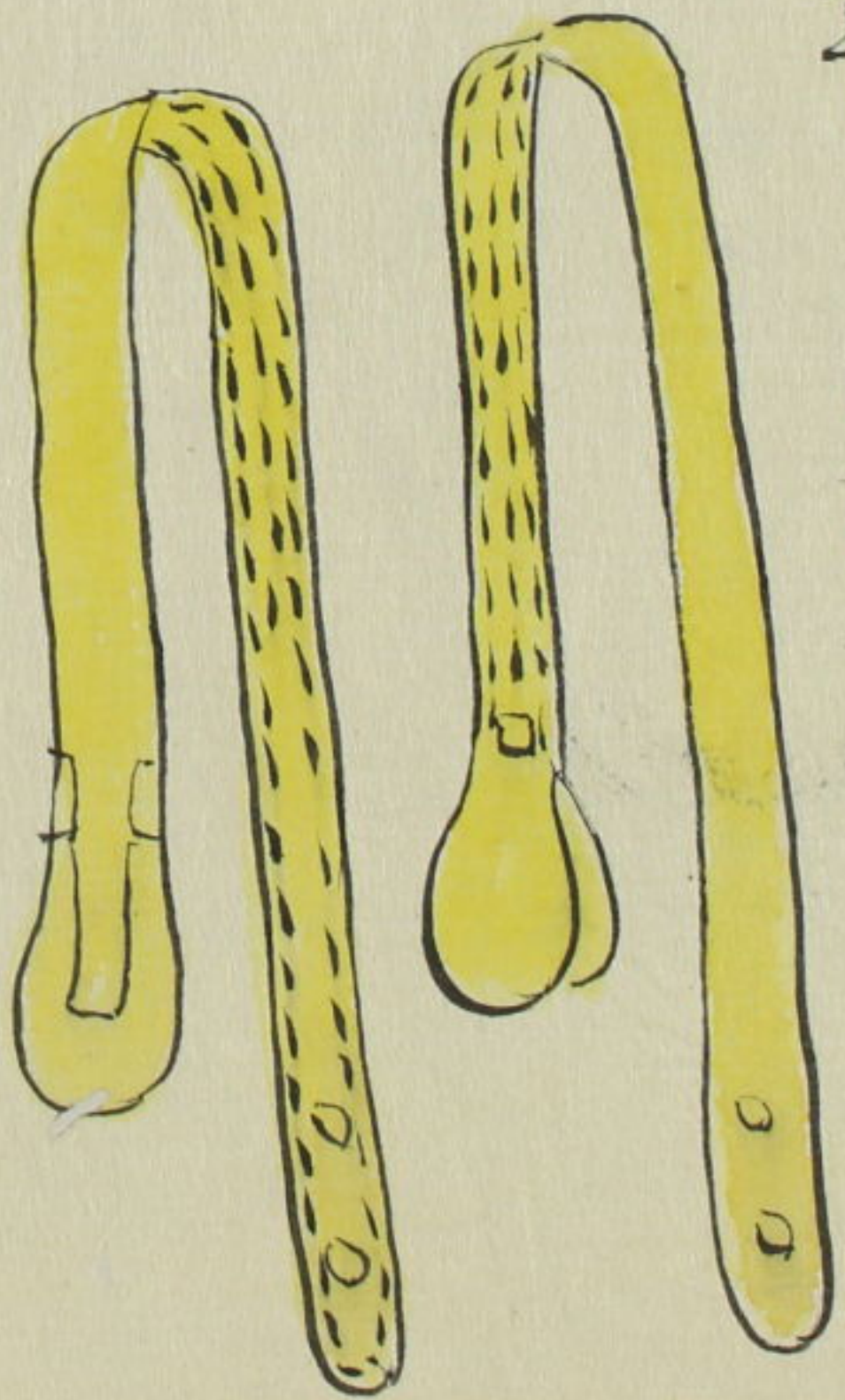


黄の草包



力草

固形



一 障泥ハ式にもういず志可一 起んせいの馬ハ常々あ
 をり用むる也なるをきろよ去同洗すりとそ
 少き草を見ざる松小つけ紙俵足も大略俵なり
 志可一 當代ハ挾抱ハ障泥と用ゆ之

一 之圃ハ古なりきふなり慶長の末薬のかざりにむ来
 た俵亦なり去同式ハありういず去ぐふおとかい
 こそ志可のくれなり

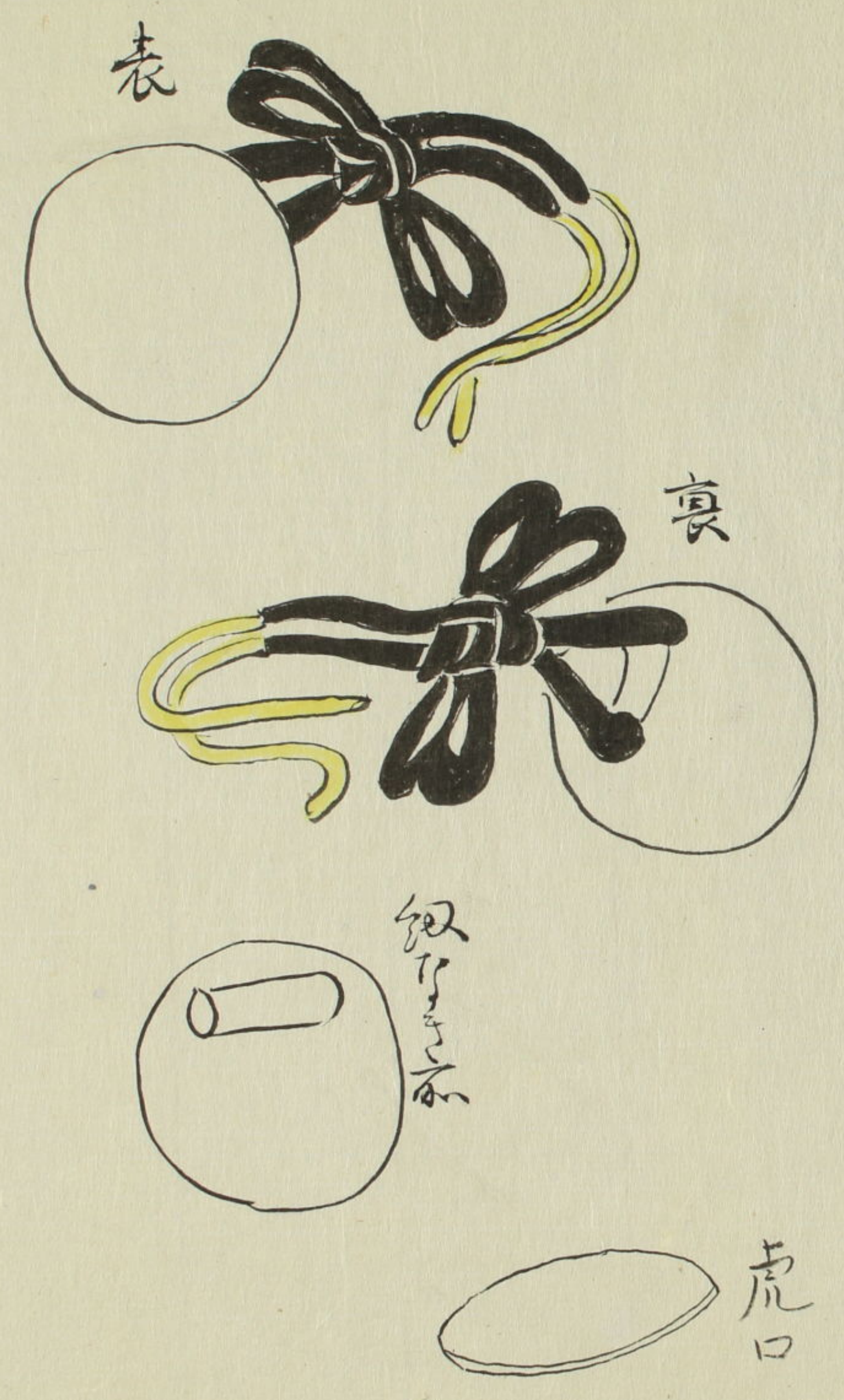
一 薬ハ古くのころと近代のころわとハ作方相違なり
 何事を用ひても若くは

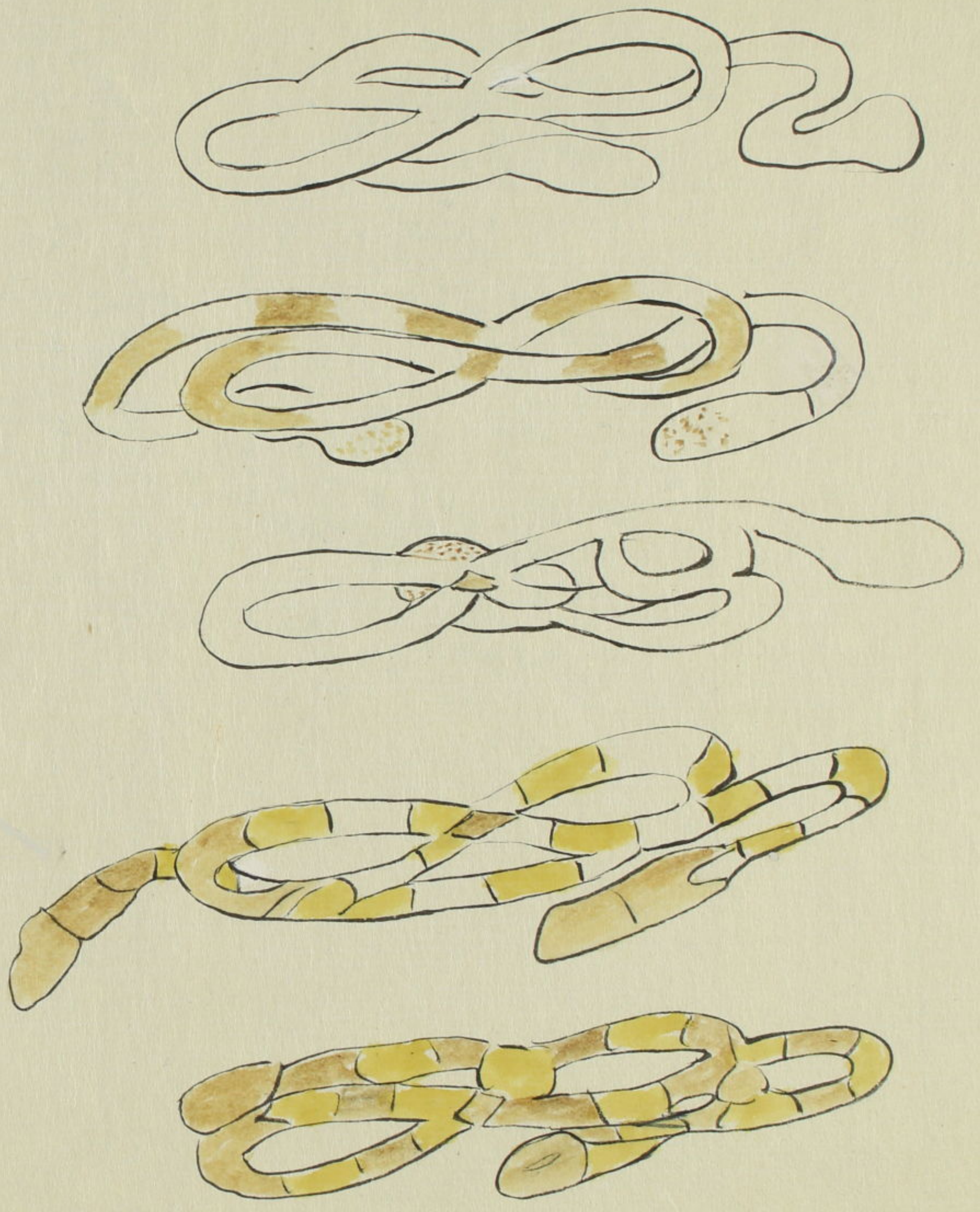
一 押懸ハ桃世系林不又なり志の——尚代管用の心得
 居て掛——
 一 是押懸ハ入道の入とる——の——
 一 常の月より押懸ハ紅と白紅と黄世系と白黄と
 白菊黄と白世類なり
 一 四方のハ鏡と用也金銀の——何きても——

圖の如し

一 鏡四角の 金銀の内面をともする銀なり

一 反押懸心





禁糸の事

- 一扇とさくく射座のい
- 一常の秘曲と射座のい
- 一あゝ馬のゝ座のい
- 一取ら取矢と射座のい
- 一行騰の充れゝ座のい
- 一草本のうちそ外のゝたもそ席あつ
- 一たりゝ人の紋座のゝ的あゝ射座のい
- 一射も振あゝたあゝ工之保あゝ早下をい

却て元よりなり籠よりまきどー

一酒ハ酔らる射屋より熱めて酒ハ枯るどー

一飢らる射屋より

一ト糸はとこいさげ袖をあらわさどー

一蹴を渡すおまけ糸ハあゝ馬の尻を落して不々

りくとのまどー

一ト糸又強足の射籠入屋より

一蹴射の本意を忘るべしと拵をまきどー

一扇くく向てお等をまきどー

一上賢ハ狩ヤ〜都る見おたりもも場とさどー

一糸ハ鞭入屋より二の射矢つひ〜てのちよハ入

てもよー

一之の射放しお後射鞭とも無用の事

一笠のてり〜むど弛出す糸我頼おる射屋下

申りと迫屋〜び晴の射ハ狩文とすし能引て射

一矢と〜狭ハ橋キる糸一束より長く貫おは〜ど

一矢と貫ハ二三度おたぐり貫をまきどー

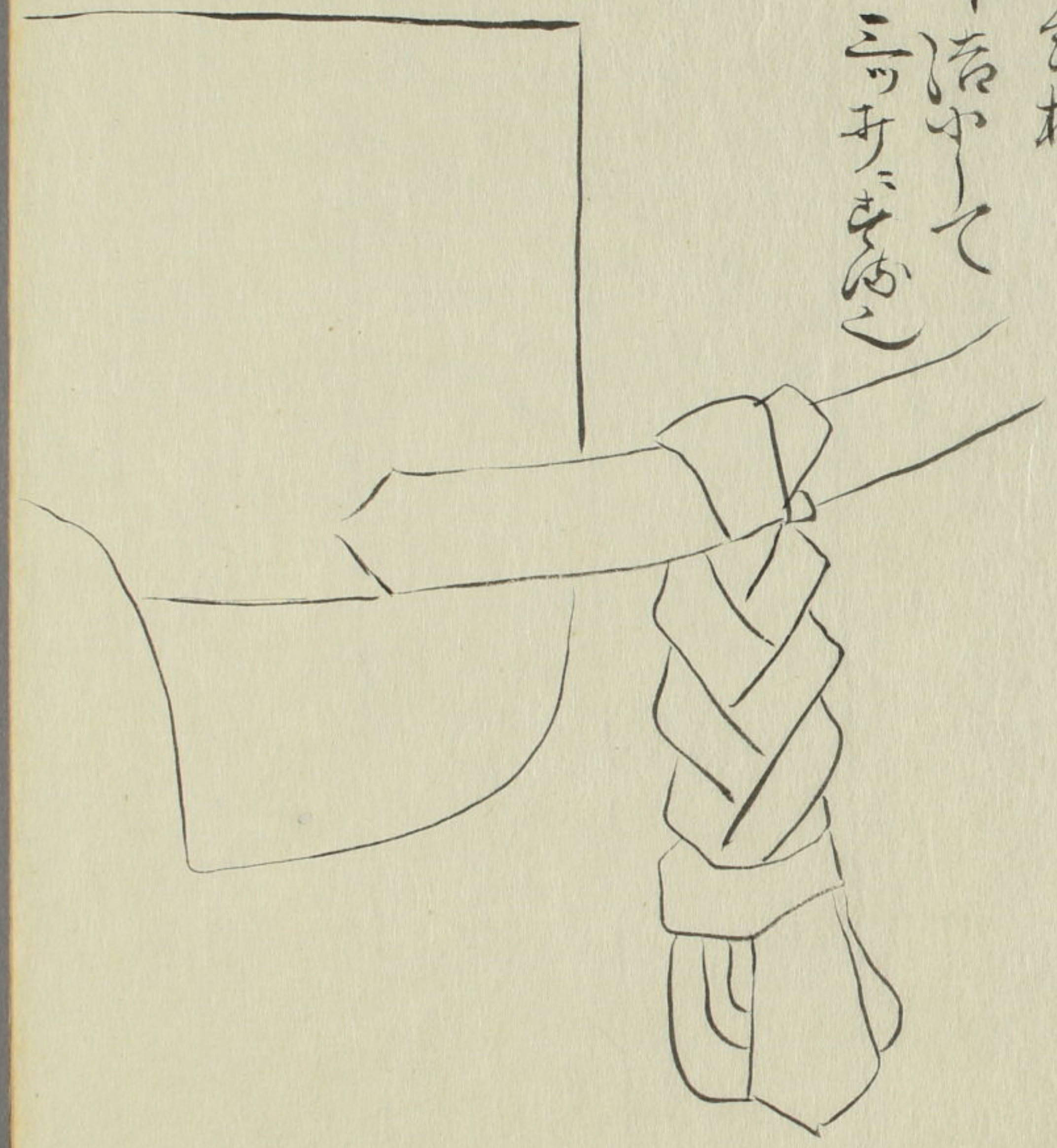
一装束等そのこす〜成の射籠をまきどー

右の外あり有くとも物く成事一との記述之
世余挾地の書物終とんか下

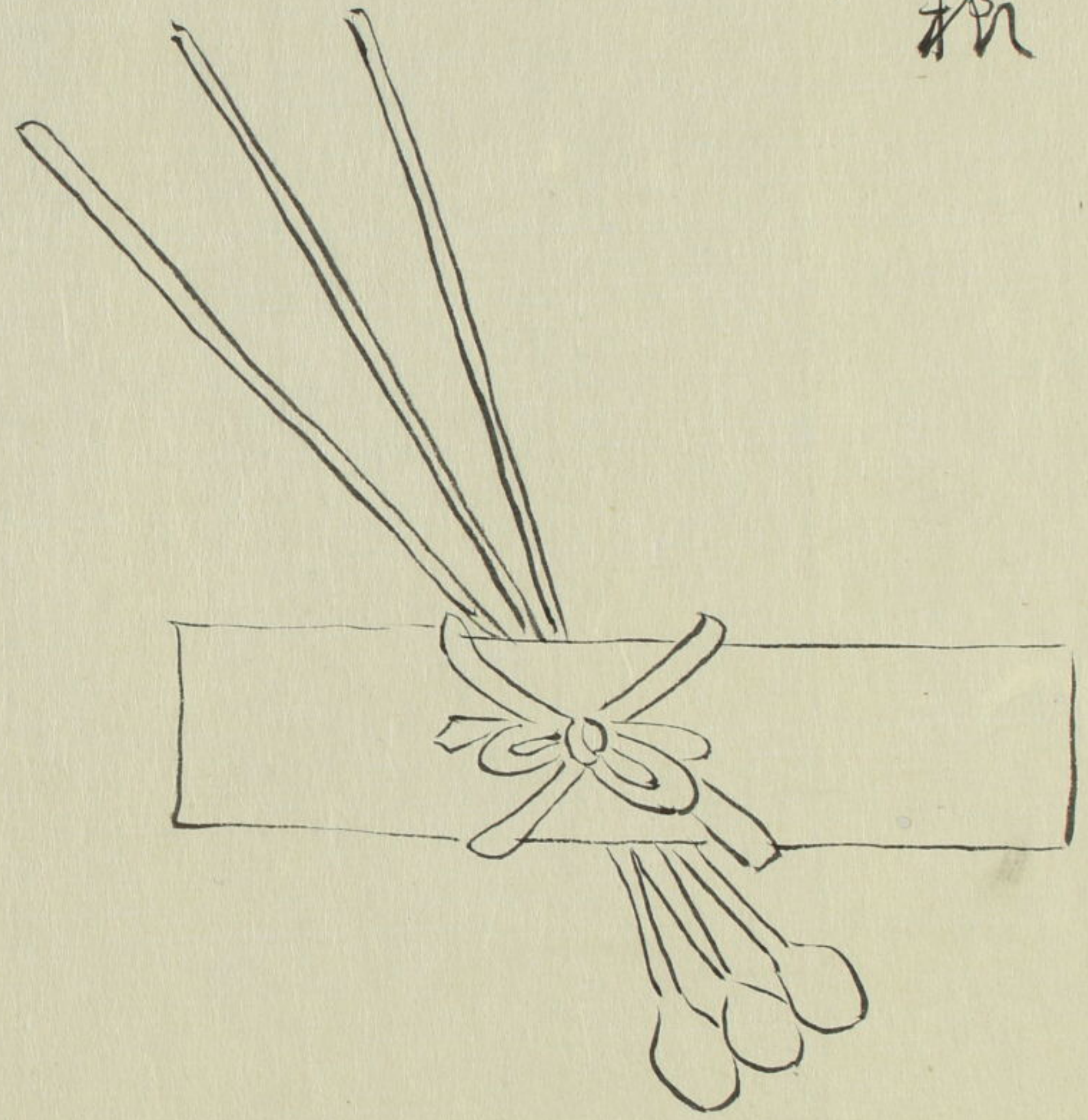
寛政元年四月書之

小
子
紐
結
帳

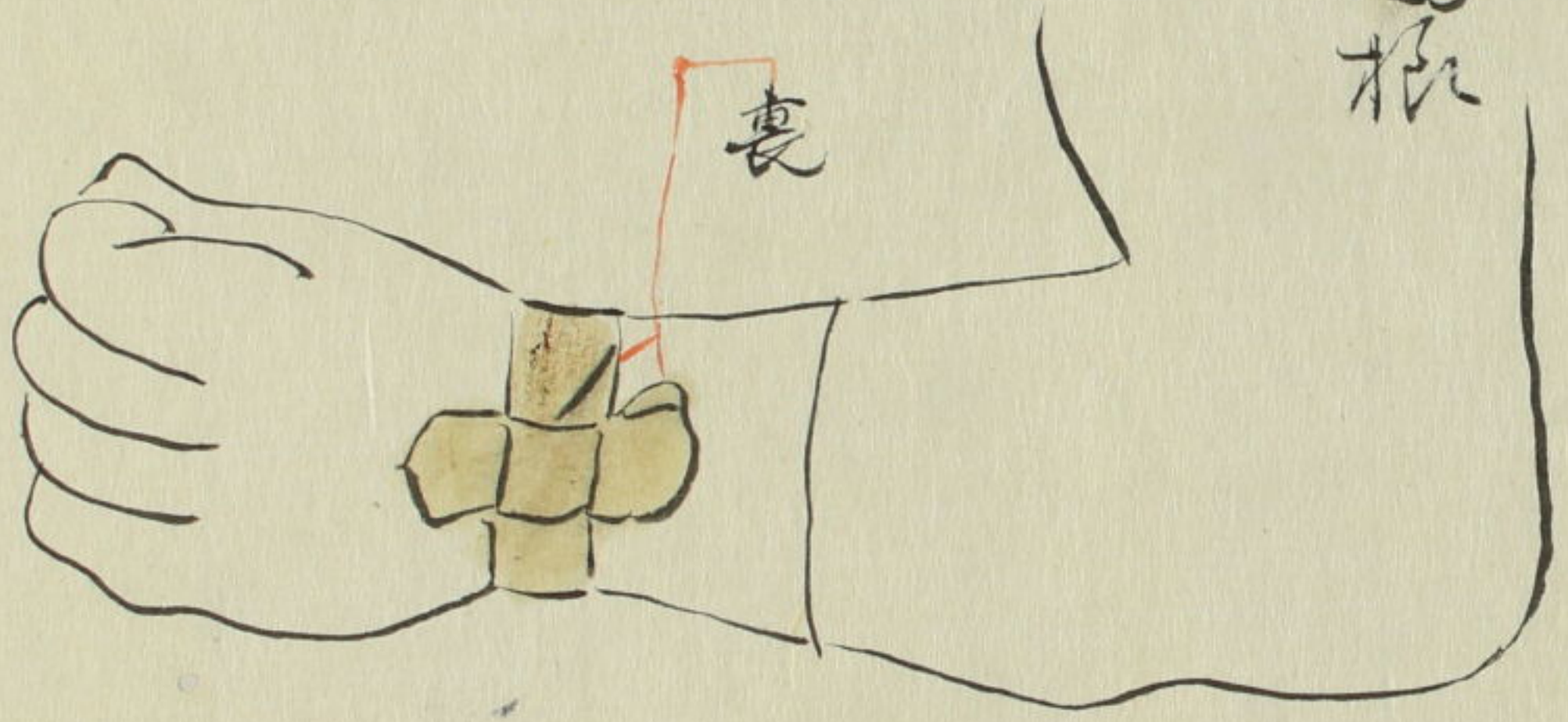
組
行
活
中
一
七
三
等
サ
ミ
カ
シ



矢平校振



一具の丈並紐の筒振



うけのたとい
 指の二の節と
 元どのよりき
 如部とて高申
 して切漁し
 又元どとよひ
 高申あり切て
 此高振のうらなり

鞭の柄



土岐源頼貞藏書

2

2

2 11 11 11

